資 料

トリニダードでの野生動物飼育

ブラウン RC¹⁾, ガルシア GW¹⁾, マニック M¹⁾

ポウハデ S²⁾, 有嶋 和義³⁾, 牧田 登之³⁾

1) ウェストインディーズ大学医学部獣医学科, マウントホープ, トリニダード・トバゴ, ウェストインディーズ

2) ロイヤルバンク, トリニダード・トバゴ, ウェストインディーズ

3) 麻布大学獣医学部解剖学第2教室 〒229-8501 神奈川県相模原市淵野辺 1-17-71

The Survey of Wildlife Farms in Trinidad

RC BROWN¹⁾, Gary Wayne GARCIA¹⁾, M MANICK¹⁾, S POIJADAE²⁾

Kazuyosi ARISHIMA³⁾ and Takashi MAKITA³⁾

1) Faculty of Agriculture, The University of the West Indies
ST, Augustine, Trinidad and Tobago, W.I.

2) Royal Bank, Trinidad and Tobago

3) Department of Veterinary Anatomy, Faculty of Veterinary Medicine, Azabu University
Fuchinobe, Sagami-hara-shi, Kanagawa 229-8501, Japan

ABSTRACT. In Trinidad and Tobago, Wildlife is sold at higher prices than that of domestic animals. There could be some economic potential for the wildlife farmer. In 1990-91, 14 wildlife farms and 15 farmers were surveyed in Trinidad. Among those 8 were hobbyists, 2 were ordinary farmers, 3 were solely wildlife breeders and 2 were small business farmers. The 11 farms were located in the rural parts of Trinidad. Four farms were located in sub-urban areas. Age structure of wildlife farmers were 3 in 21-30, 4 in 31-40, 5 in 41-50 and 3 in 51-60 years old. Most of the farms (13) reared agouti while two farms reared deer. The farmers sold the agouti meat for U.S. \$7/kg in open season (October 1- March 31) and U.S. \$10/kg in closed season (April 1-September 30). The venison (deer meat) was U.S. \$10/kg in both seasons.

Key Words : Trinidad・Tobago, wildlife farm, Agouti

Jpn. J. Zoo Wildl. Med. 5(1) : 123-126, 2000

トリニダード島は、西インド諸島(Caribbean Archipelago)の最南端にあり面積4,772 km²で、平均降雨量は年125~210 cmで、その森林には野生動物が多い[5,7]。

James(1988)によると、狩猟が許される10月1日~3月31日に数千kgの野生動物の肉が得られるという[6]。林野庁の推定によると野鳥以外の野生動物の肉は、1981~1982年の狩猟期に54,100 kgにのぼる[1]。これらの野生動物は、pipe銃、種々なワナによってしとめられている。このような大量の野生動物の狩猟はいつまで続けられるの

うか。

野生動物飼育場で繁殖させることによって、野生動物の絶滅、森林環境の荒廃を防ぐべきではないだろうか。

トリニダード・トバゴの野生動物飼育の背景

トリニダード・トバゴでの狩猟対象の動物には次のようなものがある。

(1) 哺乳動物

アグーチ(*Dasyprocta aguti*, 現在は *D. leporina* とい

ブラウン RCら

う)

鹿(red forest brocket deer, *Mazama americana*)パカ(Lappe Spotted Paca, *Agouti paca*)

オポッサム(Manicou or Black eared Opposum,

Didelphis marsupialis)

アルマジロ(Tattoo or Nine Banded Armadillo,

Dasypus novemcinctus)野豚(Quenk or Collared Peccary, *Tayassu Tajacu*)

(2)鳥 類

Cocrico(*Ortalis ruficauda*)

(3)爬虫類

アリゲータ(Spectacled Caiman, *Caiman sclerops*)イグアナ(*Iguana iguana*)Morocoy(*Geochelena* spp.)

これらの動物を飼育することは数年前からトリニダード・多巴ゴの田舎で数多く行われている [6]。これらは告発をおそれて秘かにに行っている。Asibey(1986)は飼育することは違法ではないと示唆しているが [3], 禁猟期(4月1日~9月30日)には処分したり, 取り引きしてはならない。World Conservation Union, スミソニアン研究所, 国連食糧農業機構なども飼育を支援しており [6], トリニダード・多巴ゴ政府も経済活動として野生動物の飼育・繁殖の重要性に気づくようになった。

公的認可と育成のために, 飼育場を調査することになった。これらの飼育場は, 主にリクリエーションや定年退職者の趣味のため, あるいは農民の副業として運営されている。トリニダード・多巴ゴの営林署と既存の飼育者たちの協力で1984年に野生動物飼育者と農民の協会が結成された。

James(1988)は野生動物飼育の目的を以下の分野に分類した [6]。

- ①食糧と商品の製造
- ②経済的な機会をつくる
- ③地方の開発
- ④有害動物の管理
- ⑤動物保護の成果

野生動物の飼育は, 肉や手工芸品, 医薬の原材料, ペットとしての取引によって, 個人レベルでも国家としても経

済的な利益がある [2,6]。トリニダード・多巴ゴでの野生動物の肉の価格は U.S. \$ 4~6/kg [2] で, また1対のアグーチは U.S. \$ 80 で売られている [1]。1977~83年に輸入した鹿などの野生動物の肉は1年に U.S. \$ 600 万と推定される。

野生動物飼育場は主として地方にあるので, 地方の産業(cottage industry)の発展に寄与し [2], 観光おこしにも役立つし [6], 毎年の村祭りや展示会も経済的にコミュニティをたすけ, これらはまた年中行事として観光カレンダーのイベントになろう。

James(1988)はcocricoも飼育できれば害鳥ではなく有用な鳥にできると示唆している [6]。これは野生の卵の採取に依る。飼育したcocricoを野生に戻してやることも, 野生動物の保存に有益である。

トリニダード・多巴ゴの野生動物飼育者の調査

14ヵ所(図1), 15名の飼育者へのインタビューによる飼育状況の調査を行った。この15名はトリニダード・多巴ゴの農業, 陸地, 海洋資源省の林野庁野生動物課の提出した野生動物飼育者のリストの75%に当たる。

質問は, 飼育経歴および野生動物飼育が生活にどのように役立っているかをたずねた。

結果と考察

大部分はトリニダードの地方に存在するが, 4農場は都

図1 トリニダード島内の野生動物飼育場の位置

トリニダードでの野生動物飼育

市郊外にある。飼育者の年齢は表1のとおりである。

経営の形態は表2のとおりである。

趣味的に飼育している者は、肉を売ったり食べたりはしないが、ブリーダーとして動物を売ることにはある。

飼育をはじめた動機は表3のとおりで、一番多いのはハンターから入手したから(46.6%)である(表3)。正式に飼育繁殖が導入されたのは、過去10年以内であるが中には、20年も飼育している(表4)。

アグーチを飼育しているのが86.7%(13カ所)で、鹿を飼育しているのが13.3%(2カ所)であったが、パカ、野豚、アルマジロ、morocoy、イグアナ、cocricoを飼育している農場はなかった。

表1 トリニダードで1990～'91に調査した野生動物飼育者の年齢

年齢	人数	%
21～30	3	20.0
31～40	4	26.7
41～50	5	33.3
51～60	3	20.0
計	15	100

表2 トリニダードで1990～'91に調査した野生動物飼育場の経営形態

専業	3	20.0%
食料生産農家	2	13.3
小企業農家	2	13.3
趣味	8	53.3

表3 トリニダードで野生動物の飼育をはじめようになった理由

動物保護のため	1	6.7%
受継いだから	2	13.3
ハンターから入手したから	7	46.6
趣味として	4	26.7
庭でつかまえたので	1	6.7
計	15	100

表4 飼育をはじめてからの年数

1～4年	7	47%
5～10	5	33
11～15	1	7
16～20	2	13

アグーチと鹿は共に肉用である。アグーチ肉の売価は解禁期は1kg U.S. \$7で禁猟期は1kg U.S. \$10であるが鹿肉は解禁期でも禁猟期でも1kg U.S. \$10である。鹿の皮をドラム用に用いることもある。アグーチと鹿は扱いやすく、しばらくすると馴らすことができる。また他の動物よりはアグーチと鹿の畜産に関する文献が多い。

野生動物飼育者達と懇談していると、ハンターや野生動物肉輸入者よりも割に合わないと思っている者もいる。アグーチの育成には12～18ヵ月かかり、その経費を考えると、ハンターよりも利潤が少ない。

結 論

トリニダード・トバゴでは野生動物肉は、家畜(鶏、あひる、七面鳥、牛、豚、山羊、羊、兎)の肉よりも高価である。もし安定供給ができれば経済的な可能性を持つ。これは飼育繁殖することから可能となる。

野生動物の飼育には教育上の機会もあり、これからはウエストインディーズ大学が協力して科学的文献の蒐集、分析などを行う。

食肉や副産物の生産以外にも、農家の収入を補い、地方の開発をたすけ、野生動物保存の効用もある。トリニダードでは野生動物の飼育は増えている。地方自治体の支援によって、社会的、経済的にたすけになるだろう。

飼育者達は野生動物保存の見地から行っている者は少ない。ハンターの獲物を増やしているだけと思っているからである。しかし、飼育することによって、野生の卵を採ることや、肉を採ることを減らし、結果的には野生動物保存に寄与しているのである。

要 約

トリニダード・トバゴではアグーチ、鹿などの野生動物の飼育が行われている。公認化のために、飼育者の75%に当たる15ヶ所を調査して、飼育者の年齢、構成、動物の種類、動機、飼育してからの年数を明らかにした。

キーワード: トリニダード・トバゴ、野生動物飼育、アグーチ

本文は、1994年9月4日～9日にTA2000で報告されたもの(Proceedings of TA2000. p171-174)を基にしたものである。

ブラウン RCら

REFERENCES

1. Anon. 1987. Wildlife farming will catch on in Trinidad and Tobago. *Mews* 4.
2. Asibey EOA. 1984. Economic role of wildlife farming in Trinidad and Tobago, *United Nations Development Programme*, pp. 17-21. Food and Agriculture Organization on the United Nations, Port of Spain.
3. Asibey EOA 1986. Wildlife farming in Trinidad and Tobago, *Problems and Prospects, United Nations Development Programme*, pp. 4-13. Food and Agriculture Organization on the United Nations, Port of Spain.
4. Brown RC, Garcia GW, Manick M and Poujade S. 1994. A case study: Wildlife Farming in Trinidad. *Proc TA2000* 171-174.
5. Hardy JD 1982. Biogeography of Tobago, West Indies, with special reference to Amphibians and Reptiles. *Bulletin of the Maryland Herpetological Society* 18(2) June 1982 T.F.H. Publ, Neptune City.
6. James C. 1988. *The Socio-Economic Importance of Wildlife Farming in Trinidad and Tobago*. pp. 1-4. Wildlife Section Forestry Division Ministry of Agriculture Trinidad and Tobago, Unpubl.
7. Marshall RC. 1934. *The Physiography and Vegetation of Trinidad and Tobago*, Clarendon Press, Oxford.